

1 別記様式第7号

学位論文審査の結果の要旨

| | |
|------------|---|
| 1. 申請者氏名 | 松浪 軌道 |
| 2. 審査委員 | 主 査：（兵庫教育大学 教授） 難波 安彦 副主査：（兵庫教育大学 教授） 米田 豊 委 員：（上越教育大学 教授） 茨木 智志 委 員：（兵庫教育大学 教授） 森 秀樹 委 員：（兵庫教育大学 教授） 森田 猛 |
| 3. 論文題目 | 価格理論を組み込んだ小学校社会科授業開発研究 ー社会事象の経済学的な説明をめざしてー |
| 4. 審査結果の要旨 | <p>教科教育実践学専攻社会系教育連合講座松浪軌道から申請のあった学位論文について、兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。</p> <p>論文審査日時：令和2年2月13日（木）11時00分～12時00分 場 所：兵庫教育大学 神戸ハーバーランドキャンパス 演習室3</p> <p>1. 学位論文の構成と概要</p> <p>本研究では、経済分析を行う上で不可欠な経済概念を組み込み、子どもが社会事象を経済学的に説明できる小学校社会科授業を開発した。</p> <p>先ず社会科授業における「社会事象の経済学的な説明」を定義し、その構造を示した。次に、経済的な学習内容を精緻化するための価格理論を、小学校社会科授業の内容に変換する方法を明らかにした。そして、価格理論を組み込んだ小学校社会科授業の内容を構成した。この内容構成論に基づいて、価格理論における利潤概念、リスク概念、需要・供給理論、費用・便益理論を組み込んだ小学校社会科授業を開発した。</p> <p>本論文は「第Ⅰ部 価格理論を組み込んだ小学校社会科内容構成論の構築」及び「第Ⅱ部 価格理論を組み込んだ小学校社会科授業の開発」で構成されている。</p> <p>序章 本研究の目的、意義と方法について論じた。本研究の目的は、「価格理論」を組み込み、子どもが社会事象を経済学的に説明できる小学校社会科授業を開発することである。</p> <p>第Ⅰ部 価格理論を組み込んだ小学校社会科内容構成論の構築</p> <p>第Ⅰ章 小学校社会科授業における経済的な学習内容の課題とその改善の方向性</p> <p>小学校社会科授業における経済的な学習内容の課題とその改善の方向性について論じた。先ず、社会科授業における「社会事象の経済学的な説明」を定義し、その構造を明らかにした。続いて、社会科授業において、社会事象の経済学的な説明をめざ</p> |

す意義を示した。次に、小学校学習指導要領〔社会〕に対応した解説編や指導書及び本研究に関する小学校社会科先行授業を分析し、経済的な学習内容の課題を抽出した。最後に、抽出された経済的な学習内容の課題を考察し、改善の方向性を示した。

第Ⅱ章 価格理論を組み込んだ小学校社会科内容構成論

第Ⅰ章で論じた内容を基に、価格理論を組み込んだ小学校社会科内容構成論を示した。まず、価格理論の概要を整理し、その構造を明らかにした。次に、価格理論を小学校社会科授業の内容に変換する方法について明らかにした。そして以上を基に、価格理論における利潤概念、リスク概念、需要・供給理論、費用・便益理論を変換し、小学校社会科授業の内容構成を行った。

第Ⅱ部 価格理論を組み込んだ小学校社会科授業の開発

第Ⅲ章 利潤概念を組み込んだ小学校地域学習の開発

利潤概念を組み込んだ小学校地域学習を開発した。具体的には、利潤概念を組み込んだ第4学年社会科「兵庫県南あわじ市のレタス作りとたまねぎ作り」の授業モデルを考案して実践した。そして、授業実践の結果を分析、検討した。

第Ⅳ章 リスク概念を組み込んだ小学校産業学習の開発

リスク概念を組み込んだ小学校産業学習を開発した。具体的には、リスク概念を組み込んだ第5学年社会科「高知県のナス作り」の授業モデルを考案して実践した。そして、授業実践の結果を分析、検討した。

第Ⅴ章 需要・供給理論を組み込んだ小学校歴史学習の開発

需要・供給理論を組み込んだ小学校歴史学習を開発した。具体的には、需要・供給理論を組み込んだ第6学年社会科「大正時代の米価上昇」の授業モデルを考案して実践した。そして、授業実践の結果を分析、検討した。

第Ⅵ章 費用・便益理論を組み込んだ小学校公民学習の開発

費用・便益理論を組み込んだ小学校公民学習を開発した。具体的には、費用・便益理論を組み込んだ第6学年社会科「名塩道路の開通と政治の働き」の授業モデルを考案して実践した。そして、授業実践の結果を分析、検討した。

終章

本研究の意義と今後の課題を示した。特に本研究の成果は、次の4点である。

- (1) 社会科授業における社会事象の経済学的な説明を定義し、その構造を明らかにした。
- (2) 価格理論を小学校社会科授業の内容に変換する方法を明らかにした。
- (3) 価格理論を小学校社会科授業の内容に変換する方法を基に、利潤概念、リスク概念、需要・供給理論、費用・便益理論を組み込んだ小学校社会科授業の内容を構成した。
- (4) 利潤概念、リスク概念、需要・供給理論、費用・便益理論を組み込んだ小学校社会科授業モデルを開発し、実践結果を分析することで、その有効性を証明した。

2. 審査経過

本研究は、経済分析を行う上で不可欠な「価格理論」を組み込み、子どもが社会事象を経済学的に説明できる小学校社会科授業を開発することを目的としている。この目的は、現在の小学校社会科授業における、次の2点の問題点にかかわっている。

(1) 小学校社会科授業においては、社会事象の経済学的な説明に関しては、経済学の研究成果が組み込まれた法則性をもつ内容が取り扱われていない。

(2) 小学校社会科授業には、経済的な学習内容が含まれているものの、経済に関する用語のみが使用され、しかも用語の内容は自明のものとして取り扱われており、経済に関する用語の内容を正確に把握できない場合がある。

(1)(2)から、小学校社会科授業における経済的学習内容は重要性であるにもかかわらず、子どもたちの内容理解は皮相的なレベルに留まり、不正確なままである危惧もある。従って、上記2点の問題点の解決は小学校社会科における経済的内容の教育の課題である。本研究では、その課題解決を目指し、経済分析を行う上で不可欠な価格理論における利潤概念、リスク概念、需要・供給理論、費用・便益理論を組み込み、子どもが社会事象を経済学的に説明できる小学校社会科授業を開発している。先行の小学校社会科授業を分析した結果、現在まで利潤概念、リスク概念、需要・供給理論、費用・便益理論を適切に組み込み、社会事象を経済学的に説明したものは抽出されなかった。この結果から、本研究は、社会科教育学の分野において新規性を有する内容と判断できる。また経済的な学習内容を精緻化するための価格理論を、小学校社会科授業の内容に変換する方法を明らかにしており、ここに本研究の独創性と実践性がある。従って、本研究における成果は、全国の小学校現場における授業実践の質的向上に資するものと言える。

これらのことから、本研究は社会科教育の理論研究として価値があるだけでなく、学校教育現場の授業実践に資するものでもあり、社会科授業実践の改善に大きく貢献するものであると高く評価できる。

3. 審査結果

以上により、本審査委員会は松浪軌道の提出した学位論文が博士（学校教育学）の学位を授与するにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。